

道徳学習指導案

指導者名 土江庸介

- 1 学年 第3学年 1組
- 2 主題名 家族の絆
C－(14) 「家族愛、家庭生活の充実」
- 3 ねらい 主人公の経験を通して、家族の絆について考え、自分が家族にとってかけがえのない存在であることを自覚し、親からの無償の愛に感謝する心情を深め、充実した家庭生活を築こうとする心情を養う。
- 4 教材名 「母よりの年賀状」
(出典：『中学生の道徳 3年 かけがえのないきみだから』学研)

5 主題設定の理由

- 家族は、一般的に親子及び兄弟姉妹という関係により成り立ち、その一人一人が誰かと取り替えることができないかけがえのない価値を有する存在である。また、人間は、過去から受け継がれてきた生命の流れの中で生きている。父母や祖父母が在り、そのかけがえのない子供として深い愛情をもって育てられている。今日、家庭を取り巻く状況も様々であり、その姿は一様ではないが、その家族を構成する成員相互の温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれている。そしてさらに、その自覚をもつことが、より充実した家庭生活を築くことにつながり、心の寄りどころとともに生きる源となる。

中学生の時期は、学年が上がるにつれて次第に自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立への意欲が高まっていく。そのため、自分を支えてくれる父母や祖父母の言動やしつけに反抗的になりがちである。ちょっとした忠告や叱責が、あたかも自分の全てを否定するかのよう思えて、時として、父母の意向に反した行動や無視した行動となって現れることもある。

この時期に、家族について考え、自分の成長を願い無償の愛をもって育ててくれている父母や祖父母の気持ちに気づき、その気持ちに応えるために自分にできることを考えることは大きな意味がある。父母、祖父母の愛情に気づき、感謝と敬愛の気持ちを深め、充実した家庭生活を築こうとする心情を養いたいと考え、本主題を設定した。

- <個人情報保護のため省略>

○ 本資料は、戦後間もない頃の熊本県の高校受験を控えた「わたし」と、その家族の物語である。「わたし」は、中学校3年生の12月に、父から経済的な理由で、市内の高校の受験をあきらめて地元の高校に進学してほしいと言われる。「わたし」の心は大きく揺れ、父母をののしる。その結果、家の中は毎日、何となく重苦しい雰囲気になり、「わたし」は家族と口を利かなくなる。年が明け、元旦に母からの年賀状を読んだ「わたし」は、声をあげて泣く。それは、反抗期である「わたし」に対する母の愛情のこもった年賀状であった。年賀状を読んで、「わたし」は、家族に支えられていることを感じ、その気持ちにこたえようと、立ち直り、前向きに生きようとする。日々の生活に苦勞しながらも「わたし」のことを思い続ける母の愛情に感謝する気持ちを考えることで、父母に感謝し、父母への敬愛の念を深め、家庭生活の中で協力していくことが大切であることに気づかせたい。

生徒にとっては時代背景がつかみにくいと考えられるため、戦後は食糧難であったことや、兄弟が多いときには口減らしが行われることもあったということを事前に指導しておきたい。はじめに親へのイメージを問うことで、資料への導入とする。その後、主題追求課題を提示し、この時間に考えることを確認する。展開では、最初の発問で、父から志望校を変えてほしいと言われ、目標をもって友人と努力してきたのに、経済的な理由であきらめないといけないやりにきれない思いで、父母をののしったときの「わたし」の気持ちに共感させたい。新年を迎え、初詣にも行かず、一人布団をかぶって寝ている「わたし」に母よりの年賀状が届く。そこには、親としての不甲斐なさとともに母の「わたし」に対する思いがつつられていた。文面にある「今度は、お前が母さんに親守歌を唄ってほしい。」という部分を取りあげ、「あなたが主人公だったら、『親守歌』の歌詞は、どんなフレーズや言葉にするだろう。」と問う。『親守歌』の歌詞を考えることで、親の立場や親に対する様々な思いを自分のこととして表現させたい。自由な言葉で、一、二行程度の、あるいは短い言葉の歌詞を考えることを通して、母への思いを表現させる。一人一人が考えた歌詞とその理由や根拠についてグループ交流する。グループはより深い交流が可能な3人グループを基本とした。そこでは、それぞれが歌詞とその理由や根拠について語り合い、互いの考えや意見に対する疑問点や納得した点についての交流が主となる。そして、友達が考えた歌詞の中で「いいなあ・・・」「納得できる。」と思ったものを主に全体交流する。自分と異なる道徳的価値や価値観を交流することは、少し広い視野に立った価値観の多様性やより深い価値理解につながると考える。また、「いいなあ・・・」「納得できる。」と感じた友達の意見をあえて全体交流することで、自分と他者の存在やあり方、他者との関りについて意識させたい。そのことを通して、友達の良いところや良き心根にも深く触れることができる人になってほしいと考える。

最終的には、一人一人が「自立した人間」を目指すことになるが、そこに求められている「自立」は、他者と切り離された存在ではなく、「他者とともに生きる存在」としての自分の姿である。つまり、他者とのあり方や関わりについても主体的に考えられる生徒であってほしいと願い、全体交流場面を考えた。最初にもった親へのイメージと、授業を通して、友達の意見を聞き、考え、新たに学ぶことができたイメージが対比できるように板書を工夫したい。そして、終末では資料の母が「わたし」に唄ってくれたであろう子守唄を聞かせ、余韻をもたせて授業を締めくくりたい。

6 学習指導過程

	学習活動	発問□ 及び予想される反応（・）	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の導入 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 親に対して、どんなイメージがあるだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・うるさい ・お世話になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの人と相談してよいことを伝える。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <主題追求課題> 「家族って何？」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読む。 ・あらすじの確認をする。 ・個人で考える。 ・母からの年賀状をもう一度読む。 ・個人で考える。 ↓ 3人グループで交流する。 ・全体で交流する。 ・個人で考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読む。 ○考えを伝え合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 泣きながら父母をののしったとき、「わたし」はどんなことを考えていただろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に頑張ってきた。 ・悔しい。 ・困っている。 ・私は努力しているのに・・・。 ・とにかく島を離れ、市内の高校に行きたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> もし、あなたが「わたし」だったら、『親守歌』の歌詞は、どんなフレーズや歌詞にするだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・迷惑をかけてごめんなさい。 ・心配してくれてありがとう。 ・お母さんのために自分ができることを頑張る。 ・あけましておめでとう。 ・これから心配をかけないようにします。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 友達の歌詞で「いいなあ・・・」「納得できる。」と思う歌詞をメモしよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 友達の歌詞で「いいなあ・・・」「納得できる。」と思うものと、なぜそう思うかを出し合おう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちが伝わるから ・家族の温かさが伝わる。 ・自分が頑張るという気持ち。 ・親が自分のために努力してくれた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> いま、あなたは、自分の家族に対してどんな思いをもっているだろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に戦後の時代背景については確認し、理解させておく。 ・あらすじを十分に理解させる。 ・考えやすくするために年賀状を提示する。 ・3人グループの話し合いは、考えた歌詞と、なぜその歌詞にしたのか理由を述べさせる。 ・全体での話し合いでは、自分のグループの他の人の歌詞で、いいなあと思ったものや納得できるものを紹介し、その理由を述べさせる。 ・なければ自分で考えた歌詞を紹介させる。 ・個人で書かせて終わる。後日、無記名で学級通信で紹介する。 ・発言できる生徒がいれば、発言させる。

<ul style="list-style-type: none"> ・中学校に入学した年 遠足の弁当が芋だった。泣きながら芋をかじった「わたし」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に見られたら恥ずかしい ・握り飯を楽しみにしていた ・私の気持ちを考えてくれていない 	<ul style="list-style-type: none"> みじめ プライド 裏切り 苛立ち、怒り 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみにしていた握り飯を食べることができずに、みじめな「わたし」の気持ち 	
<ul style="list-style-type: none"> ・十二月のある寒い夜 市内の高校をあきらめるように言われ、父母を大声でののしった「わたし」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あきらめないといけないのは悔しい ・なぜ我が家はお金がないのか ・私の気持ちを父と母は分かっていない 	<ul style="list-style-type: none"> 悔しさ 目標や人生計画・自立 友情 進路への不安 	<ul style="list-style-type: none"> 目標としていた進路先を変更しなさいと言われ、納得できない「わたし」の気持ち 	<ul style="list-style-type: none"> 父母をのしったとき、「わたし」はどんなことを考えていただろう。
<ul style="list-style-type: none"> ・元旦の朝 ふとんをかぶって寝ている「わたし」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・許せない ・自分は間違っていない ・親とは口も聞きたくない ・自分は愛されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 反抗・甘え 身勝手さ 依存心 進路への不安 	<ul style="list-style-type: none"> ふて寝している「わたし」の気持ち 	
<ul style="list-style-type: none"> ・母からの年賀状を読み、泣く「わたし」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心配してくれている ・わがままを言ってごめん ・これからは、親を頼ることばかりではなく、自分でできることをしなければ・・・ ・子守唄で励まされたから、親守歌をお母さんに 	<ul style="list-style-type: none"> 無償の愛 反省 謝罪 決意 希望 家族愛 母の困り感 	<ul style="list-style-type: none"> ・母の無償の愛に気づいた「わたし」の気持ち ・「もうお前に唄ってやれる子守唄がない、今度は、お前が母さんに親守歌を唄ってほしい」と書いた母の思い 	<ul style="list-style-type: none"> もし、あなたが「わたし」だったら、『親守歌』の歌詞は、どんなフレーズや言葉にするだろう。
<ul style="list-style-type: none"> ・地元の高校へ進学、高校卒業と同時に大学へ進学。アルバイトと奨学金で大学を卒業する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは、自分にできることはすべて自分でやる ・親にはできるだけ迷惑をかけずに自立しよう ・父母に楽をさせてやりたい ・自分が立派に社会人になって、恩返しをしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 父母の愛 感謝 向上心 強い意志 恩返し 自立 自主・自律 	<ul style="list-style-type: none"> 親に心配をかけないために自分にできることをしようとする「わたし」の気持ち 	
<ul style="list-style-type: none"> ・息子が、反抗し始めている。 ・毎年ふるさとに帰る「わたし」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が父母にしてもらったように自分の子どもにもできるだけのことをしよう ・どんなに反抗してきても、ずっと応援していこう ・父母の偉大さが分かった ・この地域で育ててもらった 	<ul style="list-style-type: none"> 親への感謝 父親としての責任 家庭のあり方 郷土愛 親への愛、誇り よりよく生きる強さ 	<ul style="list-style-type: none"> 親になって、父母からの無償の愛に改めて気付く「わたし」の気持ち（ふるさとの母のにおい、優しい風景、今年もまた帰りたい） 	